

平成20年度

第2回

(集団研修)

自然公園の管理・運営と利用（エコツアー）

実施要領

平成20年9月

独立行政法人国際協力機構（JICA）

Japan International Cooperation Agency

## 目 次

1. コース基本情報	1
2. コース目的	1
3. 到達目標	1
4. 研修プログラム	2
5. 研修員参加資格要件	3
6. 研修実施体制	3
7. 研修の評価	4
8. 研修付帯プログラム	5
9. 主な宿泊場所	5
10. その他	6

### 付属資料

付表－1 研修員の業務関連情報

付表－2 研修カリキュラム

付表－3 平成 20 年度日程表（案）

付表－4 年度別受入実績表

## 1. コース基本情報

(1) コース名

和文：(集団研修) 自然公園の管理・運営と利用 (エコツアー)

英文：Group Training Program on Management for Eco-Tourism and Sustainable  
Use of Natural Park

(2) 受入期間

平成 20 年 8 月 31 日 (日) ~10 月 17 日 (金)

(3) 技術研修期間

平成 20 年 9 月 8 日 (月) ~10 月 15 日 (水)

(4) 定員、割当国

定 員：6 名

割当国：アルゼンチン、ラオス、インドネシア、サモア、ウガンダ、ニウエ、  
スリナム (下線は受入国)

(5) 類型

中核人材育成型

## 2. コース目的

自然環境および自然公園の管理・運営と利用において、国際環境法の理念に基づき、自国の自然環境保全と資源の賢明な利用について意識を高め、普及啓発を促進できる人材が育成される。

## 3. 到達目標

- (1) 自然環境の保全や自然資源の管理と賢明な利用および地域づくりに対する日本の理念・体系について説明できる。
- (2) エコツーリズムの理念・体系を理解するとともに、ラムサール条約、生物多様性条約、世界遺産条約と整合した自国に適したプランを策定できる。
- (3) 環境教育の重要性を理解し、地域づくりと連携した自国に適したプランを策定できる。

## 4. 研修プログラム

### (1) 研修内容

来日後一週間のオリエンテーションの後、帰国までの期間、研修を実施する。主に講義、実習、視察、討論から構成される。

#### ア. 研修カリキュラム（付表-2 参照）

#### イ. ジョブレポート発表会

##### (7) 目的

- a. 研修員自身が問題点を再認識する。
- b. 研修員相互間で問題意識を共有する。
- c. 講師が研修員の業務内容、研修で習得したい技術・知識を理解する。

これらの発表を通じ、講師より個々の研修員の期待に対してできること、できないことを明確に示す意見交換の場とする。

##### (イ) 発表内容

研修員は以下の3点について主に発表する。

- a. 自国でどのような仕事に従事しているのか。
- b. 業務でどのような問題を抱えているか。
- c. 研修の中で習得したい技術、知識

#### ウ. アクションプラン発表会

##### (7) 目的

- a. 研修員が帰国後に取り組むべき課題を明確にする。
- b. 実施可能な計画の立案能力を向上させる。
- c. 研修成果として発表会資料を帰国後利用する。

##### (イ) 発表内容

ジョブレポートで発表した問題点および研修中に新たに想定された問題点の解決のための計画を策定し、その目標達成のためのアクションプランを発表する（必要記載事項として、タイトル、解決すべき問題に対する目標、期間、場所、実施主体、活動内容などについての記述）。

- (2) 使用言語 英語

## 5. 研修員参加資格要件

当該コース募集要項記載の条件

- (1) 自然公園の管理・運営及び、自然保護、環境教育の普及啓発を担当する中堅職員
- (2) 当該分野で2～3年の経験がある者
- (3) 年齢28歳以上38歳以下であること
- (4) ハードなフィールド研修のできる体力があり、心身ともに健康で、女性については妊娠していない者

各コース資格要件

- (1) 所定の手続により割当国政府から推薦されていること
- (2) TOEFL CBT 200点（PBT 578点）以上に相当する英語能力を有すること
- (3) 軍隊に服役していないこと

## 6. 研修実施体制

本コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下 JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を、釧路国際ウェットランドセンター（KIWC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。具体的業務分担は次のとおり。

- (1) JICA 帯広
  - ア. 実施計画書作成（コース目的、到達目標、研修期間など）
  - イ. 評価
  - ウ. 実施予算の執行管理
  - エ. 募集要項および実施要領等の作成
  - オ. その他
- (2) 釧路国際ウェットランドセンター
  - ア. 日程表の調整・作成

- イ. 講師、視察先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配
- エ. その他

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) 研修監理員

技術研修期間中、(財)日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。

- ア. 関係者間の連絡調整
- イ. 通訳・翻訳
- ウ. その他

## 7. 研修の評価

(1) 評価の目的

コースの到達目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの質的改善を図る。

(2) 評価の方法

- ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握
- イ. 研修員が提出する質問票による評価
- ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 改善検討会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、釧路国際ウェットランドセンターが参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

## 8. 研修付帯プログラム

### (1) ブリーフィング

来日直後に、帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明のほか、日常生活を送る上での諸注意等を行う。

### (2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・経済・教育・行政などを紹介する。

### (3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として10時間の日本語講習を実施する。

#### 付帯プログラム日程(予定)

日 程	内 容
9月1日(月)	ブリーフィング
9月2日(火) 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」 生活オリエンテーションバスツアー
9月3日(水) 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の政治、行政」「日本の経済」 講義「日本の歴史・文化」「日本の教育」
9月4日(木)	日本語講習
9月5日(金)	日本語講習

## 9. 主な宿泊場所

帯広国際センター (OBIC)

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1-2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

釧路ロイヤルイン

所在地：〒085-0018 北海道釧路市黒金町14丁目9-2

Tel (0154) 31-2121 Fax (0154) 31-2122

## 10. その他

### (1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

### (2) 研修員の待遇

#### ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

#### イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

### (3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上



平成20年度(集団)「自然公園の管理・運営と利用(エコツアー)」研修カリキュラム表

コース目的：自然環境及び自然公園の管理・運営と利用において、国際環境法の理念に基づき、自国の自然環境保全と資源の賢明な利用について意識を高め、普及啓発を促進できる人材を育成する。

項目	科目	講義	実習	視察	担当講師	講義目的	講義内容
<b>到達目標1：自然環境の保全や自然資源の管理と賢明な利用及び地域づくりに対する日本の理念・体系を理解する。</b>							
日本の体系・理念	日本における国立公園の管理・運営	2.0			環境省自然環境局国立公園課	日本の国立公園の管理運営法について学ぶ	国立公園の概要、管理手法など
自然環境保全・自然資源管理	湿地保全とエコツアー(キラコタン岬・コッタロ湿原)		5.0		新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	保護区における湿地モニタリング手法について学ぶ	国立公園内での湿地モニタリング
日本の体系・理念	日本のエコツーリズム施策	2.0			環境省自然環境局ふれあい推進室	日本のエコツーリズム普及施策について学ぶ	エコツーリズム普及国内施策など
<b>到達目標2：エコツーリズムの理念・体系・手法を理解すると共に、国際環境法と連携した自国に適したプランを策定できる。</b>							
エコツーリズム手法	エコツアーにおける施設の活用(十勝千年の森)			2.0	新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	地域産業を活用したエコツーリズムについて学ぶ	観光・体験型農園経営の事例
エコツーリズム手法	エコツアープログラム(楽器作りとリバーウォッチング)		4.0		然別湖ネイチャーセンター	自然資源の賢明な利用手法について学ぶ	自然の素材を生かした土笛製作と箱メガネによる河川観察
エコツーリズム手法	エコツアープログラム(シーカヤックとトレッキング)		7.0		然別湖ネイチャーセンター	自然環境を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	シーカヤックおよびハイキングによる自然観察
エコツーリズム手法	エコツアープログラム(ダッチオープン)		3.0		然別湖ネイチャーセンター	地域環境を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	地元食材を活用したエコツアープログラム事例
エコツーリズム手法・国際環境法との連携	遊歩道の設置と活用(温根内)		2.5		新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	自然環境を生かした遊歩道の設置について学ぶ	湿原に面した丘陵地における遊歩道設置事例
エコツーリズム手法・国際環境法との連携	地域におけるエコツーリズム(湖沼のカヌーと自然観察)		2.5		新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員) レイクサイドとうろ 土佐良範 社長	地域住民によるエコツアー運営と保全のありかたについて学ぶ	地域産業を活用した住民によるエコツアーと保全の取り組み事例
エコツーリズム体系・理念	エコツーリズム総論	3.0			マーク・ブラジル	エコツーリズムの理念について学ぶ	エコツーリズムの理念と事例
エコツーリズム手法	ラムサール湿地におけるエコツアー(別寒別牛川カヌー)		2.0		曙カヌー工房	タンチョウの保護に配慮したカヌー運営について学ぶ	野生生物生息地におけるエコツアープログラム事例
国際環境法との連携	地域におけるエコツーリズムの取り組み	2.0			新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	ラムサール条約の「湿地の賢明な利用」とエコツアーとの連携を学ぶ	湿地の賢明な利用の事例としての地域のエコツアープログラム運営
国際環境法との連携	地域の湿原保全の取り組み(霧多布湿原トラスト)	2.0			霧多布湿原トラスト 職員 松井 美奈	地域住民主体の湿地保全について学ぶ	トラスト活動による湿地保全活動の事例
エコツーリズム手法	地域の湿原保全の取り組み(霧多布湿原トラスト)		4.0		霧多布湿原トラスト 副理事長 瓜田 勝也	地域特性と産業を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	湿地・海辺環境を活用したエコツアープログラム事例
エコツーリズム手法	地域の湿原保全の取り組み(霧多布湿原センター)		8.0		霧多布湿原センター 阪野 真人・栗原 章子	地域特性と産業を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	地域産業(漁業・酪農業)を活用したエコツアープログラム事例
エコツーリズム手法	地域を生かしたエコツアープログラム(ホースバックハイイク)		5.0		鶴居どさんこ牧場	地域を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	地域の産業と連携したエコツアープログラム事例
エコツーリズム手法・国際環境法との連携	世界自然遺産におけるエコツアー(知床国立公園)	1.0	7.5		知床ネイチャーオフィス	自然公園におけるプログラムを学ぶ	国立公園・世界自然遺産におけるエコツアープログラムの運営と規制
エコツーリズム理念	マスツアーとエコツアーの課題(知床五湖)	3.5	1.5		新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	エコツアーの特性と課題について学ぶ	マスツアープログラム事例との比較検討
エコツーリズム手法	河川におけるエコツアープログラム(釧路川ツインカヌー)		1.5		自然塾	河川におけるエコツアープログラムについて学ぶ	ツインカヌーを活用したエコツアープログラム
エコツーリズム手法	地域の施設の活用(細岡ビクターズラウンジ)		1.5		細岡ビクターズラウンジ 渡辺 寿 館長	自然資源の有効利用について学ぶ	端材を活用したエコツアープログラム事例
エコツーリズム理念・手法	文化史跡とエコツアープログラム(平安神宮)		1.5		新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	文化史跡を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	平安神宮庭園とエコツアープログラム
エコツーリズム手法	伝統的ツール・人力車とエコツアー		1.0		新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	伝統的道具を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	人力車とエコツアープログラム
エコツーリズム手法	伝統的ツール・トロッコ列車/川船とエコツアー		3.0		新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	産業遺産を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	トロッコ列車、手漕ぎ船を利用したエコツアープログラム
<b>到達目標3：環境教育の重要性を理解し、地域づくりと連携した自国に適したプランを策定できる。</b>							
環境教育	湿地保全にかかわる地域の取り組み	2.5			新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	地域におけるエコツーリズム運営について学ぶ	地域で運営されるエコツアープログラム事例
環境教育	施設の設置と活用(釧路湿原展望台)		2.0		新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	自然系施設の展示手法と利用者への普及啓発について学ぶ	湿原の自然と文化に関する展示施設における普及啓発事例
環境教育	地域の環境教育(霧多布湿原センター)	2.0			霧多布湿原センター 高井 文子	地域における環境教育の取り組みについて学ぶ	環境教育プログラムの構築
地域づくり	地域における施設の運営(霧多布湿原センター)		2.0		霧多布湿原センター 高井 文子	住民参加による自然系施設の運営と普及啓発について学ぶ	自然系施設を拠点とした普及啓発活動と地域づくり
環境教育	国立公園内の遊歩道(川湯硫黄山)		1.5		新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	国立公園における普及啓発活動について学ぶ	国立公園における施設展示・遊歩道の整備と活用
環境教育	国立公園の施設の活用		2.0		塘路湖エコミュージアムセンター 牛崎 方恵 指導員	エコツアーを通じた環境保全教育プログラムについて学ぶ	国立公園内での環境教育事業
<b>その他</b>							
	コースオリエンテーション	1.5			新庄 久志 コースリーダー(KIWC主任技術委員)	研修コース概要説明、研修員に求められることを説明する	
発表会	ジョブレポート発表会		3.0			研修員各自の業務内容、抱える問題、研修に求める事など関係者が互いに理解する	
発表会	アクションプラン発表会		2.5			本研修を活かした帰国後のアクションプランを通して理解度を測る	
開発教育支援	学校訪問(開発教育)		5.0			開発教育支援として日本の小中学校を視察し、交流する	

(小計) 18.0 71.0 13.0

総計 102.0

自然の素材を生かした土笛製作と箱メガネによる河川観察

平成20年度(集団)「自然公園の管理・運営と利用(エコツアー)」研修日程(案)

月日	曜日	午前/午後	プログラム	担当	会場
8月31日	日	来日			
9月1日	月	終日	ブリーフィング		JICA帯広国際センター
9月2日	火	終日	JICAブリーフィング/ジェネラルオリエンテーション		JICA帯広国際センター
9月3日	水	終日	ジェネラルオリエンテーション		JICA帯広国際センター
9月4日	木	終日	日本語講習		JICA帯広国際センター
9月5日	金	終日	日本語講習		JICA帯広国際センター
9月6日	土	休日			
9月7日	日	休日			
9月8日	月	午前	プログラム・カリキュラムミーティング	JICA/KIWC	JICA帯広国際センター
		午後	ジョブレポート発表会	JICA/KIWC	
9月9日	火	午前	地域におけるエコツーリズムの取組み	KIWC	JICA帯広国際センター
		午後	エコツアーにおける施設の活用	KIWC	
9月10日	水	午前	移動:帯広→然別		
		午後	自然公園のエコツアープログラム	然別湖ネイチャーセンター	然別湖畔
9月11日	木	終日	自然公園のエコツアープログラム	然別湖ネイチャーセンター	然別湖畔
9月12日	金	終日	自然公園のエコツアープログラム	然別湖ネイチャーセンター	然別湖畔
9月13日	土	午前	移動:然別→帯広		
		午後	休日		
9月14日	日	午後	移動:帯広→釧路		
9月15日	月	午前	施設の設置と活用	KIWC	釧路市湿原展望台/ヨ
		午後	遊歩道の設置と活用	KIWC	釧路湿原温根内遊歩
9月16日	火	終日	休日		
9月17日	水	午前	休日		
		午後	地域におけるエコツーリズムの取組み	土佐良範(レイクサイドとうろ)/KIWC	塘路湖畔
9月18日	木	終日	湿地保全とエコツアー	KIWC	釧路湿原キラコタン岬
9月19日	金	午前	エコツーリズム総論	マークブラジル	釧路市交流プラザさし
		午後	釧路市長表敬	KIWC	釧路市役所
9月20日	土	休日			
9月21日	日	休日			
9月22日	月	終日	移動:釧路→厚岸 ラムサール湿地におけるエコツアー 曙カヌー/KIWC		別寒辺牛川・厚岸湖
9月23日	火	午前	移動:厚岸→浜中 地域の湿地保全の取組み 霧多布湿原トラスト		霧多布湿原トラスト
		午後	地域のエコツアーの取組み 霧多布湿原トラスト 移動:浜中→厚岸		ケンボッキ島
9月24日	水	午前	移動:厚岸→浜中 地域の環境教育 霧多布湿原センター		霧多布湿原センター
		午後	地域における施設の運営 霧多布湿原センター 移動:浜中→厚岸		
9月25日	木	午前	移動:厚岸→浜中 地域と連携したエコツアー 霧多布湿原センター		霧多布湿原センター
		午後	地域と連携したエコツアー 霧多布湿原センター 移動:浜中→釧路		

9月26日	金	終日	移動: 釧路→鶴居 地域を生かしたエコツアープログラム 鶴居どさんこ牧場 移動: 鶴居→釧路		
9月27日	土	午前	休日		
		午後	ホームビジット		
9月28日	日	休日			
9月29日	月	移動: 釧路→宇登呂			
9月30日	火	終日	世界自然遺産におけるエコツアー	知床ネイチャーオフィス	知床国立公園
10月1日	水	終日	マスツアーとエコツアーの課題	KIMC	知床国立公園
10月2日	木	午前	移動: 宇登呂→川湯 河川におけるエコツアープログラム (自然塾)		屈斜路湖・釧路川
		午後	自然公園内の遊歩道 KIWC 移動: 川湯→釧路		阿寒国立公園・川湯
10月3日	金	午前	国立公園の施設の活用	塘路湖エコミュージアムセンター	塘路湖エコミュージア
		午後	地域の施設の活用	渡辺 寿(細岡ビジターズラウンジ)	細岡ビジターズラウン
10月4日	土	午後	移動: 釧路→東京		
10月5日	日	休日			
10月6日	月	午前	日本における国立公園の管理・運営	環境省自然環境局国立公園課	JICA東京センター
		午後	日本におけるエコツーリズム施策	環境省自然環境局ふれあい推進室	JICA東京センター
10月7日	火	午後	移動: 東京→京都		
10月8日	水	午前	文化史跡とエコツアープログラム	KIWC	平安神宮
		午後	伝統的ツール人力車とエコツアー	KIWC	東山
10月9日	木	午前	伝統的ツールトロッコ列車とエコツアー	KIWC	嵯峨嵐山
		午後	伝統的ツール川船とエコツアー	KIWC	保津川
10月10日	金	午前	移動: 京都→東京		
		午後	アクションプラン作成準備		
10月11日	土	休日			
10月12日	日	午前	移動: 東京→釧路		
10月13日	月	終日	アクションプラン作成準備		釧路市交流プラザさし
10月14日	火	終日	学校訪問		
10月15日	水	終日	アクションプラン発表会 評価会		釧路市交流プラザさし
		夕方	交流会		釧路市交流プラザさし
10月16日	木	午前	閉講式		
		午後	移動: 釧路→東京		
10月17日	金	帰国			

## 年度別受入実績表

### 1. 応募／選定(受入)人数

	19年度	20年度	累計
応募数	15名	8名	23名
受入数	7名	6名	13名

### 2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国名	19年度	20年度	累計
(アジア全域)			
ラオス	○●	○	2名
インドネシア		○●	2名
(中南米地域)			
メキシコ	●●		2名
アルゼンチン		●	1名
(アフリカ地域)			
ガーナ	○		1名
レソト	○		1名
ウガンダ		●	1名
(大洋州地域)			
キリバス	●		1名
サモア		○	1名
計	5ヶ国 7名	5ヶ国 6名	10ヶ国 13名



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター  
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2  
TEL:0155-35-1210 FAX:0155-35-1250  
ホームページ : [www.jica.go.jp/obihiro/](http://www.jica.go.jp/obihiro/)  
電子メール : [jicaobic@jica.go.jp](mailto:jicaobic@jica.go.jp)